

11・1労働者集会へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年10月29日
No.333

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

10・27京大バリスト打ち抜く！

◆作部京大同学会委員長のスト貫徹集会発言！

皆さん！ 1,2限のバリケード・ストライキ。そして昼集会。本当にお疲れ様でした。同学会中央執行委員長の作部羊平です。

今日このバリケード・ストライキ、実際に1,2限やり抜きました。この中で私達が授業を止められようと思った止められる。このことがはっきりしました。私達自身の力でこの大学の機能を止めることは、断固可能なんだ。

肅々と授業を受けるだけの、そして単位をとって卒業するだけの、そしてその先になんの未来があるのか分からない。非正規労働者あるいは就職できない。奨学金を返せないなら、自衛隊にいけ。そういう話が、僕らの先に待っている。戦争動員させられる。軍事研究が大学の中で始まる。この現状に対して、私達自身の解答はこのバリケードストライキ。解体はされたけれども、このバリケード・ストライキをもっともっと全国・全世界に広めていく。私達自身の力で、この社会を作り上げていく。それが今日の闘いでもって始まった。そういうものだろうと思います。

みなさん、このバリケードは先ほど解体されました。内側から暴力的に看板を破壊して、そして解体していった。みなさん、その学生がどういう思いでやったのか。僕には一旦、分からない。笑いながら、おしゃべりしながら。あるいは私達を侮辱しながら。あるいはその後ろで、この様を見ていた人たち。みなさん、ぼくはこのバリケードを破壊した人たちに対して問いたい。あなた達はいま始まろうとしている戦争に対して、どう考えているのか。戦争反対。当たり前じゃないですか！ 人が殺し合いをさせられる。こんな事を止めたいと思うのは当たり前じゃないですか！ ここにいる全員が共有できることじゃないですか！ しかし、それがどうやって実現するのか。どうやって戦争を止めるのか。そのことを巡って、分裂している。

そういう所ではなく、戦争そのものが僕らの現実性はないんだ。そういった幻想でもって、学生が授業に縛り付けられて、そしてバリケードそのものが私達の肅々とした学習環境が破壊されるから、それは悪なんだ。こういったことがまかり通る。しかし、その肅々とした学習環境で、まさに戦争がはじまっていったんですよ。あの第二次世界大戦において、知らない間に学生自治会が、戦争推進の産業報告会に変えられていって、誰も声を上げる事ができないままに、戦争は始まっていった。何百万人も殺されていった。そのことをもう一度見据えなおして頂きたい。そしてここでみていた皆さんは、その姿だし大学当局の姿をみました。賛成か反対か、これをもって改めて考えて頂きたい。大学当局に対して私達自身が何度も何度も



も、大学の中に公安警察が入り、大学から軍事研究がはじまり、大学の運営にたいして経済的徴兵制が始まろうとしている。安倍政権が戦争をやる。立場を示してくれ。戦争反対だと当たり前のことを言ってくれ。この要求に対して、この必死の思いに対して、何も応えない。何も応えないばかりか、私達はその必死の思いに対して、話合うことすらしない。大学としては交渉しない。非公認だ。申入書を受けつけない。そうやって私達の思いを、民主主義を全て粉砕して、施設管理権とか、静粛な学習環境だとかそういった支配をもって、改めて私達の上に覆い被さって、授業妨害だから、犯罪なんだから、ストライキをやめろ。こうやって私達のこのストライキに至った思いをひたすら見ようとしなさい、この大学のあり方はなんなんだ！

みなさん。もう一度考えて欲しい。このバリケード・ストライキが正しかったのか。間違っていたのか。こっから、この実際にみたストライキを見て皆さんとこっから討論を開始したい。そしてこの、3限の授業時間が始まった今になっても、ここには多くの人が集まっている。そしてここには、多くの人が集まって、僕がしゃべっている内容を聞いているし、このバリケードが解体されていく様をみて、そして考えている。これこそが、学生が大学の中から実際に真剣に討論を、真剣に思考を開始したという証拠だろうと思います。みなさん、こっからはじめようじゃないですか！

この激しい現実を前に僕達がもう一度、戦争反対の意味を捉えなおして、大学で授業を受けることの意味を捉えなおして、こっから討論をもう一度再開していきましょう。私達、同学会中央執行委員会はその先頭で、みなさん一人一人ともう一度討論をして行きたい。そういう風に思っています。みなさん、次の方針は戸のストライキを今度は、全学ストライキにしていくことだろうと思っています。この一つの講義棟だけでなく、すべての講義棟を封鎖する。その中で授業を受けたいなら、別に授業を作ったらいいいじゃないですか。先生を呼んで、その授業をやったらいいいじゃないですか。そこに大学当局が、介入して単位っていうもので縛り付けて、そして私達を戦争に最後動員していく大学のあり方を許せない！ それを粉砕したいんです。大学の授業を粉砕したいわけではないんです。だからこそみなさん。もう一度考えて欲しい。もう一度、全学ストライキを大規模にやって、そこから私達自身と私達自身が求める授業を、私達自身が今の時代をどう作るのかを、一緒に考えて行きたい。そういうストライキをやりたい。

このストライキはどちらにせよ、全国・全世界に発信されて拡大していくと思います。実際に東北大学はストライキを準備しています。そういった全国の学生がどう考えどう動いていくのか。これを注目してほしい。そして全世界の労働者や学生が実際ストライキに立ち上がって行動を開始している。このことをもう一度見てほしい。そしてその力が本当に戦争を止めるものなのかどうか。あなたたち自身が考えてほしいと思います。

今日の行動はこれで終わりにします。ここから開始しましょう。ここから考えていきましょう。私たちの方針提起としては、この力は京都大学だけで見ても始まらない。全国・全世界の仲間が実際にストライキをやって、実際に自分たちの現場で始まる戦争を止めようと必死になって苦闘している人たちが11月1日、東京・日

比谷に集まって総決起集会を開きます。ここにきて実際にストライキというものが、労働者の迫力あるストライキというものが、トルコで、韓国で、アメリカで、ドイツで、スイスで、全国の、全世界の労働者が本気になって立ち上がっているのをみなさんに見てほしい。全員参加してほしい。

今日は本当にお疲れさまでした。まだまだ話したいという人もいます。討論しましょう。次の大学の在り方をここからつくっていきましょう。よろしくお願いします。ありがとうございました。

◆斎藤全学連委員長のスト貫徹集会発言！

バリケードストライキをやり抜いた仲間のみなさん、そして共に参加してくれた多くの京大生のみなさん、本日の闘いをやりぬけたこと、本当にうれしく思っています。

私は全日本学生自治会総連合、全学連の委員長をやっています、斎藤といいます。本日は法政大学から来させてもらいました。私の法政大学では、政治的なビラをまいただけで処分をされる。ビラまきすらも禁止されている、そういう大学です。私はその大学のあり方に反対して、学内で集会を開いて退学処分になりました。以来、こういう大学のあり方を許すわけにはいかない、これが基盤になって今の社会がおかしくなっている、そう思って全学連の委員長として活動してきました。本日、京大全学自治会同学会が示した決断・決意！ この行動は歴史的なものです。

みなさん、安保関連法案、いわゆる「戦争法案」が国会で強行採決される中、国会前で本当に多くの人たちが声をあげました。声をあげて悔しい思いをしました。どうやって安倍首相の戦争政治をとめればいいのか。みなさん、その答えは本日の行動の中に示されています。戦争は、安倍政権が勝手にやれるものではありません。自衛隊だけでやれるものでもありません。軍事物資の生産も、輸送も分配も、その研究も、そして実際に戦場に行くのも、やるのは全部私たちです。学生であり、労働者であり、農民であり漁民であり、この国で生きる99%の人たちです。安倍首相にはストライキはできません。それは実際に働いて、未来をつくり、日々この国で生きている私たちだけの行動です。本日のストライキは、「本当に力を持っているのは誰なのか」、「この社会の本当の主人公は誰なのか」。そのことをほんの先端ではあるかもしれませんが、示した。そういう闘いだと思います。



私は全学連の委員長として、多くのことを言うよりも、この闘いをすべての大学でやることを目指します。京都大学の学生だけでは戦争はとめられない。大学の戦争協力とはめられない。この闘いを日本全国の大学に広めていくために本当に努力していきたいと思います。東北大学、広島大学、沖縄大学、そして何よりも私の法政大学で、学生自治会を甦らせて、戦争協力・軍事研究・戦争を実力でとめる。そういうストライキを日本全国で打っていく。そういう運動をつくりあげていきたいと思います。

11月の1日には、全国労働者総決起集会が行われます。ここに私たち学生も共に参加して、全世界から集まる、戦争と貧困に反対し、国境を超えて新しい社会を自分たち自身の行動でつくりあげようとする人たちが集まるこの集会にみんなで集まりましょう。世界の新しい可能性は今、着々とつくられつつあります。トルコのUID-DERが、中国の鉄道労働者連合会が、韓国の民主労総が、アメリカのILWUやUTL Aが、ブラジルのコンルータスが、ドイツのGDLが、本当に多くの国々で新しい闘いが始まっています。国境を越え、戦争を止めることは可能です。

私たちは大学から、この社会がどうあるべきか、大学の自治とは、学問とはなんだったのか。そのことを議論し、もう一度問い返して、必ず全国大学でのストライキを勝ちとっていきたい。そう思っています。

ストライキは単なる手段ではありません。ストライキはそれ自体が「誰がこの社会の主人公なのかをはっきりさせる」目的そのものでもあります。その中に新しい社会の可能性がある。インドでは、一億5千万人がゼネラルストライキに立ち上がりました。必ずそれはできます、私たち自身が決断すれば！ 今日この場で起きたように、できるんだってことです。ぜひ、京都大学のみなさん。共に連帯し、闘いぬいていきましょう。そして、全国から集まれた多くの仲間のみなさん、労働者のみなさん、私たち全学連は今日の闘いを全国に広げて闘いぬいていきます。共にがんばりましょう。11月1日の全国労働者総決起集会に集まっていきましょう。

首都圏学生の11・1結集アピール！

みなさんは、自分は政治に関係がないと思っているかもしれませんが、でも実は、すべてのものは政治の影響を受けています。なにより今、あなたたちが選挙で選んだ政治家が、今の社会を破壊しているのです。自分が選んだ政治家は自分で監督しましょう。私の言葉にどんな意見をもってもかまいません。賛成か反対か考え、自分の意見を持ち、行動しましょう。社会がどうなるかを決めるのはあなたの選択です！

【当面する行動方針】

○ “民主労総ゼネスト連帯！” 10.31労働者国際連帯集会

10月31日(土)午後1時30分開会／ビデオ上映

場所：千葉商工会議所第1ホール(千葉中央ツインビル2号館14階)

主催：11.1全国労働者総決起集会実行委員会

○ “闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動